

『城西人文研究』の創刊に際して

教養課程主任

蒔 田 栄 一

言うまでもなく、大学の使命とは学問研究の実践と、それを通しての人格的交流に基づく学生の教育指導とであろう。また、大学は一国の学術・文化の水準を維持し向上させる役割を担うものとも言えよう。このような目的を有する大学が各研究者の創造的研究の成果を集録し公表する場を持つことは極めて重要なことである。

やがて開学十周年を迎えんとする本学の、特に経済学部にとっては、創立当初より「城西経済学会」を組織し、その活動の一環として機関誌『城西経済学会誌』を年三回ずつ発行し続け、その学績を内外に問うて来た。そしてこの十年間に名実共に飛躍的に強化充実された本学会にも、その必然の結果として、ようやく新しい機運が熟して来たのである。即ち経済・経営学を中心として社会科学全般の学術誌としての役割を主として果して来た従来の『経済学会誌』に加えて、新たにその別冊として人文科学系の機関誌『城西人文研究』が創刊される運びとなった。このことは経済・経営学専攻者の会と言うより、むしろ本学経済学部所属者の会という点にその特色がある本学会としては極めて当然の発展的帰結であると考えられる。しかし同時に、本誌の発刊は、本学会の会長たる武市経済学部長の深い理解と、経済学会委員各位の積極的な努力の賜物であることを銘記しなければならない。

筆者はここに、一般教養課程全体を総括する立場にある者として、本誌の創刊に対して衷心より祝意を表明し、併せて上記の各位に篤く感謝する次第である。